

5
May

- 4 [土・祝]—5 [日・祝] とよはしアートフェスティバル2019
大道芸 in とよはし◎PLATほか
- 9 [木] 『かもめ』◎PLAT主ホール
- 11 [土] 東三河ふれあい看護フォーラム2019
◎PLATアートスペース
- 12 [日] K☆STAR Dance Studio Show Case vol.4
◎PLAT主ホール
- 12 [日] ビティナ・ピアノステップ 豊橋5月地区
◎PLATアートスペース
- 14 [火] 声楽「発声講座」◎PLATアートスペース
- 15 [水] 三河インテリアコーディネータークラブ
講演会「片づく家のつくり方」◎PLATアートスペース
- 16 [木] プラットワンコインコンサート Trio Glanz
『クラリネットトリオの夜～隠れた名曲に乗せて～』
◎PLATアートスペース
- 17 [金] 世界最速ジブシー・ブラス『ファンファーレ・チオカリーア』
関連企画「炎のジブシー・ブラス～地図にない村から～」上映会
◎PLATアートスペース
- 18 [土] WHY Jazz 楽団 Live@豊橋PLAT Vol.6
◎PLATアートスペース
- 19 [日] 第三十回 吉田をどり◎PLAT主ホール
- 19 [日] 前田憲男追悼コンサート
～叶正子(from サークス)&国府弘子デュオ
◎PLATアートスペース
- 21 [火]—23 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第272回例会
秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場『みすてられた島』
◎PLAT主ホール
- 26 [日] 愛知県立豊橋東高等学校 吹奏楽部
第28回定期演奏会◎PLAT主ホール

6
June

- 1 [土]—2 [日] 『CITY』◎PLAT主ホール
- 2 [日] 大正琴の調べ ブルーローズ&カンタービレ発表会
◎PLATアートスペース
- 5 [水] 桂文我 独演会◎PLATアートスペース
- 8 [土] 斎竹恭子バレエスタジオ 第28回発表会◎PLAT主ホール
- 8 [土] バレエスタジオブリエ 第7回おどらい会◎PLATアートスペース
- 9 [日] 輪の会 第六回民謡のつどい◎PLAT主ホール
- 12 [水] プラットワンコインコンサート
河合雪子『フルートで奏でる近現代の世界』
◎PLATアートスペース
- 15 [土] ヤング・ラブ・ディスコティック2019◎PLAT主ホール
- 15 [土] 山崎ハコ with 安田裕美 豊橋ライブ vol.5◎PLATアートスペース
- 22 [土] 春風亭小朝 独演会◎PLAT主ホール
- 22 [土] ドリール会の会豊橋 第20回発表会◎PLATアートスペース
- 23 [日] 豊橋おやこ劇場 高学年例会
クロスと芝居による笑劇『ひとごころし』◎PLAT主ホール
- 23 [日] 第37回アコーディオンコンサート◎PLATアートスペース

表紙／芸術文化アドバイザー 桑原裕子
撮影：宮田明里
裏表紙／加納真実「大道芸 in とよはし」
撮影：伊藤華織
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限公司STAFF
平成31年4月発行 37号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2019年5月—6月
vol. 37



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

CONTENTS

表紙
芸術文化アドバイザー 桑原裕子

2
INTERVIEW:1
「大道芸 in とよはし」

有無を言わせぬ間合い…!
加納真実

6
INTERVIEW:2

「かもめ」
前々から『かもめ』がやりたかった。
鈴木裕美

8
INTERVIEW:3

「CITY」
都市を舞台にヒーローを描く。
藤田貴大

10
TOPICS

映画『アンダーグラウンド』や
『黒猫・白猫』で注目され、
いまだにファンを増やし続ける
ジブシー・ブラス・サウンド
「ファンファーレ・チオカリーア」

12
INFORMATION

PLAT主催公演情報

14
PURA PURA

バロコの寄り道ぶらぶら
桑原裕子
「みなさん、ありがとう」

15
SUPPORT

TICKET CENTER

裏表紙
加納真実「大道芸 in とよはし」
PLAT CALENDAR

PLAT
CALENDAR



「大道芸inとよはし」

5月4日[土・祝]・5日[日・祝]

会場=PLAT、豊橋駅南口駅前広場、広小路通り、
ココラアベニュー、こども未来館ここにこ、豊橋公園

奇妙な青いジャージ姿の女が、ストーカーまがいに追ってくる!?
これは芸なのか?いやアート?それとも...
有無を言わせぬ間合い...!加納真実
聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT シニアプロデューサー

マイムコメディ

INTERVIEW : 1

今年もゴールデンウィークに世界で活躍する大道芸人たちが豊橋にやってきます。中でも、青いジャージ姿でお馴染みの「加納真実」さんは、今や豊橋のアートフェスティバルでは欠かせない存在になりました。大ヒットした歌謡曲にのせて追ってくる。一度見たらもう最後。抜け出せない加納ワールドの秘密をお聞きました。

中島—— 惹き付ける間のうまきは圧倒的ですが、早稲田大学では演劇をやっていたのですか。

加納—— 1987年に広島から上京し早稲田の夜学に行ったのですが、早めに着いたのでウロウロしていたら、うねうねしたり、カクカクしたりする動きをやっていて、声をかけパントマイムサークルに入ったのが始まりで、その後、「水中三姉妹」の名前でやっていました。

中島—— 青いジャージと赤い口紅。そして、しゃべらずに、小道具も巧みにお使いですね。

加納—— 「水中三姉妹」の一人の弟さんのジャージを借りて以来、一人でやる時はジャージを頻りに着るようになったのです。キラキラしたものより、キラキラしてないものの方が好きで。と言って、すごく地味でも何なのですが、私の服の中で、あのジャージが一番派手な色。

何色かある内、青だけが不思議にしっくりきたのですが、もう販売していないので、衣料品店でいっぱい買い、ストックしています。そして、ちょっとでも派手にしようと、その都度一番赤い口紅を探してつけています。

当初のコンセプトとしては、普通に身の回りにあるものでやりかかったのです。どこに行っても、忘れ物があったり、すぐ買って、できるような、ほんとは、紙袋一個で、どこへでも行きたいと思うのですが。どんどん増えちゃった。

中島—— いきなり、ピーっと始まる縦笛もユニークですね。
加納—— 縦笛は、大道芸を始めた最初から吹いていました。子どもの頃から自信があって、吹きながら学校から帰ってきていました。

何が始まるのかわからず、安心感を与えないのが良いなど。何だろう面白いな、と思ったら止まり、わからないから行く人と、序盤で分かれるほうが良いと思うのです。

中島—— 「恋人よ」は、観客との距離感がいいですね。

加納—— 「恋人よ」が、初めての大道芸用に考えた作品ですが、私は、おそらく誰からも無視されると思っていたのですが、意外に好評でびっくりしました。「恋人よ」がいいのは、お客さんの様子を見ながら、ゆっくり近付いていけることです。一番ではこのくらい、二番で割と深くまで。私の性格上、強引にというのが苦手で、嫌だなと思った人には逃げる時間をあげたい。去っていくお客さんを、恨みがましく追いかけてもしますが、どんな行動も、誰も傷つけない笑いつながりたいです。

中島—— 海外でも、すごいウケたと聞いたのですが。

加納—— すごいかわからないのですが、言葉がわからなくても、「恋人よ」は何かいけてしまうというか、ダ

ジャレっほい面があるから言葉がわかった方がよいのですが、海外の人は割と気にしてなくて。曲の力が強いのですぐ覚えてくれるし、メランコリックなムードというのは伝わるようです。でも日本人が真面目な顔でやっていると、作品をシリアスにとらえる方も多く、私は、どちらかというって笑ってほしいので、仮面舞踏会ができて楽になりました。

中島—— 「仮面舞踏会」では、お面を付けると、みんなにんまり笑って出てきて、不思議な力ですね。

加納—— お面を付けると、その人の個性が際立つというか。不思議なことに、顔を隠した方が、かわいさや人となりが出てきて、戸惑っているのも、すごくよく分かります。一番最初は、お面を付けずに一人で踊ったのですが、これはみんなを誘って一緒に踊った方が面白いなど。では、どうしたらしぶしぶでも出てくれるか。視界を奪われたらあきらめてくれるかも探して、能面を見付けて「いける」と思った。

中島—— 芸風の変え時については、どうお考えですか。

加納—— 私は、しつこく、割と飽きなくやれてしまうタイプで。二度同じショーをしない芸術家肌の人もいれば、ひとつのショーが完成したら次の展開へ、という人もいますが、私は、自分の作品に対する執着が強すぎるんだと思います。

中島—— 体力も必要ですが、オフはあるのですか。

加納—— 体力は、もうすごく。でも、私はまじな方で、薄

着の人は夏涼しいと見せて、直射日光だから逆に大変です。ジャージは大道芸では、すごく楽な方です。体力的には辛いですが、重い荷物を運んでいる時以外は、この仕事が楽しくなかったことはないですね。真夏と真冬にはショーがない週もあります。何か見に行ったり、作品を作ったりするチャンスも、夏と冬です。ただ、ライブハウスとか舞台もあり、意外と夏と冬も忙しいですね。
中島—— こどもの日のアートフェスティバルに、もう絶対してもらわなくては困る存在になりましたね。

加納—— 私にちびっ子が乗り気ですよ、意外でした。最初は子供が喜ぶ芸じゃないかと思っていたのですが、意外と分かりやすいのかもしれない。ツッコミやすいというか。散らかしたものを最後にお客さんに箒とちりとりで掃除してもらった場面では、子ども達は私に向かって「自分でやれ」とだいたい言います。豊橋は老若男女のバランスに偏りがいいですね。私の場合、どの層がというより、その個人によるというか。

ちびっ子からお年寄りまで、全然ピンとこない人もいれば、くる人もいます。

中島—— 待っているファンに向けて、一言お願いします。

加納—— そうですね。豊橋は、一番風フェスですね。割と重いものも飛んだりするから、気を付けて見てください。何かすごいのが飛んでいた時ありました。PLATの横、駅前、歩道橋の上が風強ポイントですね。

中島—— ありがとうございます。

加納真実[かのうまみ] / 1987年上京をきっかけにパントマイムサークル「舞・夢・踏(まいむとう)ハッピー吉沢氏主宰」に入部。1995年に島留美(ほつか)、村田朋未(バーバラ村田)と共に、マイムユニット「水中三姉妹」結成。舞台を中心に活動を始める。2002年に東京都公認の大道芸人「へブンアーティスト」のライセンスを取得し、路上パフォーマンス(大道芸)に目覚め始める。2003年「日テレARTDAIDOGEIグランプリ」で、スペシャルアーティスト賞を受賞。現在、日本屈指の人気大道芸人として活躍中。「とよはしアートフェスティバル」大道芸inとよはし』には2012年からすべての年に出演。

鈴木裕美[すずき・ゆみ]／1982年、日本女子大学在学中に、「自転車キンクリート」を結成。「自転車キンクリートSTORE」を含め、ほとんどの公演を演出。現在は小劇場から大劇場、ストリートプレイ、ミュージカル、ダンスと多種多様なジャンルで精力的に活動中。2011年より個人ユニット「鈴木製作所」を立ち上げ、『ノミコムオンナ』を制作。最近の主な演出作品に『二十日鼠と人間』『シラノド・ベルジュラック』『蜘蛛女のキス』『花より男子』『宝塚BOYS』『フログとトード』などがある。紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞優秀演出家賞、千田是也賞、菊田一夫演劇賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞歴多数。新国立劇場では『ウインズロウ・ボーイ』『エネミー』『たとえば野に咲く花のように』を演出。

INTERVIEW:2

ません。
矢作—— 一番お見せしたいのはどの点でしょうか。
鈴木—— 演出家がオーディションを受けてくださった俳優と一緒に作品を作る企画です。書いてある通りに、奇をてらわず、まっすぐな『かもめ』を俳優たちと共に探索し、お目にかけています。登場人物たちは相当みんなストコなことを言ったり、やったりする。オーディションのときにも俳優さんたちにお話したんですが「10人の残念な人々」というサブタイトルにしたいくらい。そこはお見せしたい。

オーディションというのは、参加している俳優側も途中で辞めたり、嫌だったら次の日から来なくていい。「その考え方嫌い、『かもめ』をそういうふうにやるんだったら、ここまで残っているけど引きます」と言っている、とてもフェアな場です。ご出演いただくのは、鈴木のその考え方にノック!賛成だ!と言ってくださった方たち。ウマが合って、考え方が合う俳優と一緒に作品を作るんだ、という気持ちです。それでも稽古場というのは色々なすったもんだが起こるものです。それも含めて、とても楽しみにしています。

矢作—— 役者の魅力がどういうふうに、最終の舞台に上がるのかとても楽しみです。

鈴木—— そうですね。やはり、すごい方たちが集まっていたと思います。あと、比較的、これまでの上演よりは実年齢に近いキャストで、全体的に若い印象になるかもしれません。登場人物の年齢について、脚本に「43」とか「25」とか、「40には間がある」と、はっきりした言葉があるんですが、アルカージナの朝海ひかるさんはアルカージナと同世代。「私は55歳ですよ」とドールンが何回も言うのですが、天宮良さんご自身も56歳。

俳優さんに年齢は関係ないのですが、ニーナは18歳か19歳の設定です。もちろんそう見えればいいわけで、女優さんの実際の年齢がいくつであろうと構わない。でも、この役が18、9歳であることはとても重要だと思う。トリゴーリンと20歳位の差があるところも重要。そしてとにかくキラッキラしていること。オーディションの際に、ソーリン役の皆さんが並んで、反対側に若い可愛い、もうキラッキラのニーナたちが並んでいたら、ソーリンsはみんな顔がニヤニヤしちゃう。ソーリンはニーナに「可愛いね、素敵だ」って思わなきゃいけないのですが、会場に入ってきたときから皆さん、そこはクリア!というか(笑)。でも、ニーナにはそういうところがなきやダメなんです。

どの役についても、この人のこういうひねくれた所、こういう美しさ、こういうストコドコイなことを言いやがる、という、戯曲が求めているものを本当にやってくださる方たちに、お集まりいただけたなと思っています。

矢作—— 魅力的な俳優たちによる舞台を楽しみにしています。

応募数が461人、その内の225人の方にいらしていただいて、来る日も来る日もトレープレフを見る。その中からどなたが見ても「今日の中ではあの方が素敵だったね」「じゃあもう1回来てくださいましょ」と。トレープレフ役は確か11回、それを繰り返して、渡邊りょうさんに決まりました。いまだに皆さん新国立劇場に来るとえづくって言っています、もう嫌な気持ちになるって。

矢作—— 小川さんが翻訳をされた、トム・ストップパード版の特徴はどのようなところですか。

鈴木—— 基本のストーリーは全く変わりません。ただ、モノログ部分がなくなって、会話に変わっていたり、シェイクスピアの引用が増えていたり。あと、ト書きがほとんどカットになっているのは大きな特徴かもしれません。

馬が合って、考え方が合う俳優と一緒に作る

「10人の残念な人々」の物語

前々から『かもめ』がやりたかった。

演出

鈴木裕美

考えました。でも、とにかく以前から、いつか『かもめ』を演出してみたいと思っていたので、小川さんに提案して。

矢作—— チューホフ作品の演出は初めてですか。

鈴木—— そうです。シェイクスピアやチューホフなどは、多くのプロデューサーは若い演出家の新しい発想を期待して企画するんだと思うんです。私自身はまだベテランなつもりは全くないのですが。だから、自分で「やりたい、やりたい」と言う以外に道がなかった(笑)。チューホフ作品では『かもめ』が一番好き。出てくる人たちがちょっとおバカだったり、残念なことをしてかしたり、というところがとても好きで、念願がかなってすごく嬉しいです。

矢作—— どういうことを中心に見て、フルオーディションで選考されていったのでしょうか。

鈴木—— 6週間という本当に長い期間で、へとへとになりました。まず、アルカージナだったらアルカージナだけを集めて、ある程度の人数に絞る。次に、たとえばトレープレフとニーナ、マーシャとメドヴェージェンコ、など、様々な役を組み合わせで演じていただきました。本当に愚直なやり方でした。例えば、トレープレフだったら

矢作—— フルオーディションの『かもめ』を鈴木さんが引き受けることになられた経緯をお聞かせいただけますか。

鈴木—— 前々からフルオーディションの芝居がやりたいくて、7、8年前から、いくつかの公共劇場の制作の方にお話していたんです。でも、そのときはなかなか実現は難しいんだな、という感触を受けました。小さく自分でやるしかないなと思っていた。しかし、小川絵梨子さんが新国立劇場の芸術監督になられ、フルオーディションをやりたいと仰って。そこで新国立の制作の方が、たとえば何年前から鈴木も言っていた、と思い出してくださいなんです。

矢作—— 『かもめ』を選ばれた理由はどんな点ですか。

鈴木—— やはり戯曲が手に入らないとオーディションは受けづらい。フルオーディション企画の1回目なので、本屋さんで買えるものもいいなと。そうするとテネシー・ウィリアムズか岸田國士かシェイクスピアやチューホフか、あるいはモリエールあたりかな、とか。若い人たちだけとか、男性しか出てこないものは避けたほうがいだろうな、とか、群像劇がいいのかな、とか、色々

5月9日[木]18:30開演
作=アントン・チューホフ
英語台本=トム・ストップパード
翻訳=小川絵梨子
演出=鈴木裕美
出演=朝海ひかる、天宮 良、伊勢佳世、伊東沙保、岡本あずさ、佐藤正宏、須賀貴匡、高田賢一、依木藤汰、中島愛子、松井ショウキ、山崎秀樹、渡邊りょう
会場=PLAT主ホール

フルオーディションで決定したキャストによるチューホフ不朽の名作

「かもめ」



撮影：篠山紀信

藤田貴大[ふじた・たかひろ] / 1985年生まれ。マームとジブシー主宰、劇作家、演出家。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2011年に三連作『かえりの合図、まつた食卓、そと、きつと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。『cocoon』(今日マチ子原作)の再演(2015)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。2018年11月には日仏友好160周年記念イベント「ジャポニスム2018」公式企画として『書を捨てよ町へ出よう』(寺山修司作)をパリにて上演。今もっとも注目を集める若手演劇人のひとり。

『CITY』には最初から柳楽さんのイメージがありました。『誰も知らない』で柳楽さんが妹の死体を埋めるシーンが頭の中で焼き付いていて、リアルな都会感を醸し出せると思っています。

矢作—— そういう俳優と、いよいよ一緒に作品をつくることになったのですね。

藤田—— 『書を捨てよ町へ出よう』の初演から何作品か観てくれていて、僕の作品のことも理解してくれていて、独特な作り方も、たぶんわかってくれる。井之脇さんとは初めてですが、数年前から名前が聞こえてきていて、気になっていました。実際に会ったら、かなり良い感触です。また、宮沢さんは、存在感もあるし、ガッツがある。とても良い俳優さんが集まってくれたと思います。

矢作—— 『BOAT』から『CITY』につながっていく、この役者のつながりも楽しみです。

藤田—— 豊橋は楽しみです。言い過ぎではなく、観客の反応がすごく良いイメージが体感としてあります。純粋に「作品」に興奮してくれているような、「作品」を楽しみにしてくれているような気がして、それがとても嬉しいです。各地で多くの作品を発表してきましたが、それは実は特別なことですよ。

矢作—— 豊橋は演劇に関する情報が届きにくいところですが、新しいものを観たいという欲求はあると思います。これからも、様々な作品を上演してもらいたいと思います。楽しみにしています。

作家として無視はできない。東京に出てきて13、4年になります。僕の中で伊達が遠い風景となり、以前より「東京」が自分にとって近い存在になったからこ、その違和感をより感じるようになりました。ただ、東京が面白いと思うのは、互いが無関係でいられること。隣の人が誰なのかを知らなくても済む。でも、それは無関心という冷たさが人と人にも、人と社会との間にもあるんだと思います。その冷たさを今、描かなくてはいけないと思いました。でもまあ、東京という街を描きつつ、東京に集まってきた田舎者の話にもなると思いますが。

矢作—— 今回出演される、柳楽優弥さん、井之脇海さん、また『BOAT』に続いて宮沢氷魚さんと、男優さんが印象的です。

藤田—— 男性が軸の芝居を描いて欲しいとオファーをされて、それに違和感がなかった。昔は男性よりも女性の方が描きたかったけど、最近は男性性を舞台に散りばめる比率が大きくなっている気がします。この比率を思い切り大きくしてみようという作品だと思います。もう一つは柳楽さんとやりたかった。柳楽さんの映画も、蛭川幸雄さんの『海辺のカフカ』も観ていました。『蠅の綿』という作品のために、蛭川さんと頻りに会っていた時期があるのですが、その時に『海辺のカフカ』という作品が、蛭川さんにとって特別な作品だということと、柳楽さんとはもう一回一緒にやりたいということをよく話されました。僕自身として俳優さんに抱く初めての感覚なんです。

たり、大きい空間での身体の見せ方を考えないといけない。最近、俳優も大きな会場に馴染んできた気がします。でも、大きい空間に慣れると、次に小さな空間で上演するときに演技が大きくなって、「それはこの空間ではないでよ」ということも多い(笑)それも含めて、大きな会場と小さな会場の往復はとても面白いです。

矢作—— これまでは田舎を舞台にした作品が多かったと思いますが、今回は『CITY』という都市を標榜する、その大きな転換点は何かおありでしょうか。

藤田—— 10年かけて北海道伊達市という自分の地元をモチーフに描いてきましたが、そのことはマームの結成10周年と共に一区切りついた感覚があります。そして、ここ数年取り組んできた、時代や場所を特定せず寓話的に描いた作品も『BOAT』で決着がついたと思っています。次のテーマを考えた時に、自分がまだ描いていない「都会」を描こうと思いました。伊達をモチーフに描いた作品は僕自身の記憶の話だし、寓話だと時代や場所が明らかにならないから観客の皆さんにとってそれぞれの「リアルな現実」に繋がりにくかったのかも知れません。でも、都会となると、観に来る人たちにとってのリアルでもあると思うので、それぞれの現実により迫ることができると思っています。今はすでに作品に取り組み始めますが、かなり新しいことになりそうです。

それと、2020年に向かう「東京」に異様な空気を感じています。こんな風にどんどん街が変わっていることを、

矢作—— 大きな劇場空間で演出をするようになってきましたが、何か変化がありますでしょうか。

藤田—— 意識しているのは、大きいことをし過ぎないというか、劇場が大きくなっても、具体的に作り込まれた舞台美術で空間を埋めたり、会場に合わせて無理に演出方法を変えるのではなく、小さな空間で考えてきた事をそのまま活かしています。「空間」をそのまま大きく捉えるのではなく、稽古場で小さな部分から手を伸ばし、広い会場に徐々に馴染ませていく。物と人、言葉を舞台上に同じように「配置」していく作り方も変わらないです。こんなに大きい劇場で上演する演出家になると思っていなかったし、むしろ小さい空間が好きでした。でも、ロックのフェスでも、大きいところで聴く音楽は小さい空間で聞く音楽と違うかっこよさがある。大きな空間でこそ響く作品があると思うので、そういう意味で、今「CITY」で取り組んでいる作業はとても楽しいです。

矢作—— マームとジブシーの初期作品から出演している俳優たちの底力が上がったように見えますが、そのあたりの手ごたえは、いかがですか。

藤田—— 結構手ごたえを感じています。みんな僕とほぼ同世代なのですが、僕が大きい会場で作るイコールその俳優たちも、いきなり大きな舞台に立つことになりました。対応するのは大変だったんじゃないかな。マイクに慣れ

この町で。なにを選ぶか。選ばないか。どこかに。光があたると、影ができる。

都市を舞台にヒーローを描く。藤田貴大

作・演出

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー



6月1日[土]・2日[日]13:00 開演

作・演出＝藤田貴大

出演＝柳楽優弥、井之脇海、宮沢氷魚、青柳いづみ

菊池明明、佐々木美奈、石井亮介、尾野島慎太郎、

辻本達也、中島広隆、波佐谷聡、船津健太、山本直寛

内田健司(さいたまネクスト・シアター)、續木淳平(さいたまネクスト・シアター)

会場＝PLAT主ホール

藤田貴大の約1年ぶりの新作

「CITY」

INTERVIEW:3

『映画』アンダーグラウンド』や
『黒猫・白猫』で注目され、
いまだにファンを増やし続ける
ジプシー・ブラス・サウンド

ルーマニア発の世界最速ジプシー・ブラス・バンド。今回で通算6度目となる来日ツアーを実現させるファンファーレ・チオカリーアは、1998年に衝撃のデビュー作『ラジオ・パシュカニ』を発表して以降の20年以上に渡って、その称号をハイブ(誇張)であると誰にも言わせない痛快にして重厚なブラス・アンサンブルで世界中のあらゆる音楽ファンを熱狂させ続けてきました。

もともとはオスマン・トルコ帝国の軍隊隊などの影響も受けながら、19世紀以降に世界各地に普及していったブラス・バンドから発展して中東欧諸国やバルカン半島に定住するジプシー(ロマ)たちによって盛んに奏でられるようになった“ジプシー・ブラス”は、おもに地元の冠婚葬祭などに楽士として雇われて演奏されるものでした。それが1989年のベルリンの壁の崩壊などによってヨーロッパを東西に分断していた“鉄のカーテン”が消滅し、東ヨーロッパへの関心が一気に高まる中で、それまで西側にはあまり伝わる機会がなかった東欧のジプシーたちが奏でる強烈なサウンドが次々と“発見”されることに。特に、カンヌ国際映画祭のバルムドールをも

制したエミール・クストリツァ監督による映画『アンダーグラウンド』(95年)はサントラや劇中にジプシー・ブラスを多用して世界中に強烈なインパクトを与え、その流れを受けてルーマニア北東部の人口わずかなジプシーが暮らす小村ゼチェ・プラチーニから世界の表舞台へと登場したのがファンファーレ・チオカリーアでした。

そんな彼らが世界各国でライブを成功させるに至るまでの歩み、現在も拠点とする地元の村での練習風景や暮らし、若い世代へと継承されてゆくブラスの伝統などに関しては、公演に先立って5月に上映されるドキュメント映画『炎のジプシー・ブラス〜地図にない村から』(02年)を観ていただくのがどんな解説よりもわかりやすいですが、その映画の中でも東京公演の一部がシューティングされている彼らの2000年の初来日公演は強烈の一言でした。それまでに聴いたことがないような高速リフを次々と繰り出すブラス・アンサンブル、バルカン半島らしい変拍子やアラブ音楽っぽいビートなども複雑に練り込みながらも、理屈を超えたグルーヴで踊らせてしまう強靱なグルーヴ、時には演奏しながら客席に降

りてきて会場全体を祝祭空間に変えてしまうステージング、また圧巻のサウンドをほぼノンストップで鳴らし続けながらも、アンコールでは被っていた帽子を差し出して“おひねり”を求めてくる人間臭さなど…。衝撃と祝祭性、哀愁と笑い、ローカルとグローバル、トラッドに根差した豊かさとパンクにも通じるようなソリッドなスピード感とスリルを兼ね備えた彼らのサウンドは、ワールド・ミュージックや東欧の伝統音楽ファンのみならず、ロックやジャズ、クラシックの聴き手をも思わずエキサイトさせてしまう強度とエンタテインメント性に満ちています。14年には日本を代表する大型ロック・フェスとして知られるFuji Rock Festivalに出演し、あらゆるジャンルの観客たちを衰えを知らない演奏で熱狂させたのも記憶に新しいところですよ。

また、デビュー時から“キング・オブ・ジプシー・ブラス”と呼ぶべき唯一無比なスタイルを確立しながらも、その後の作品ではよりポップなレパートリーの導入や東欧諸国の様々な音楽家やボーカリストとの共演、他国のジプシー・ブラス・バンドとのバトル形式、カナダのジプ

シー・ジャズ系ギタリストとのコラボなど、新しいアルバムを発表するたびに過去作にない試みに挑戦しながら楽団としてのフレッシュさを20年以上もキープし続けている点も驚異的。ライブでは盛り上がりには欠かせない定番レパートリーとなっている映画『007』のテーマ曲ヤステッペン・ウルフのロック・アンセム「ボーン・トゥ・ビー・ワイルド」といった誰もが知る名曲の痛快カバーをはじめ、縦横無尽なレパートリーの幅広さで老若男女を楽しませる柔軟さも兼ね備えた彼らのライブは、ジプシー・ブラスの本質を失うことなく常に進化を続けています。今回の来日公演でも、その姿勢は不変でしょう。

ベルリンの壁崩壊後の世界を象徴するようなジプシー・ブラス・ブームの立役者にして、現在もその最強楽団としてシーンをリードし続けるルーマニア発のファンファーレ・チオカリーア。一度聴いたら忘れることのできない強烈なオリジナリティと疾走感を放つブラス・アンサンブルには、インドの北西部から中東やロシア、トルコなどの様々な文化圏を通過しながらヨーロッパ各国に定住し、国境線を超えて様々な音楽やカルチャーを独自に吸収してきた流浪の民であるジプシー(ロマ)の記憶や足跡が溶け込んでいるように思える点も、聴く者の想像力をかき立てる重要なポイント。特に、ゲストとして参加する日本人女性ベリーダンサーのNourahとのコラボでは、アラブやトルコの音楽との繋がりをフィジカルに感じ取ってもらえるはずですよ。



ゲスト出演:ベリーダンサー Nourah(ノーラ) photo: Irwin Won

ホームページにおいて今年の彼らのライブ・スケジュールを確認してみると、すでに1月中旬から2月にかけてドイツ〜フランス〜ノルウェー〜チェコの20会場以上をサーキットする欧州ツアーを成功させ、ほとんどの会場がソールドアウトを記録!9月以降には約1カ月に及ぶ大規模な北米ツアーやブラジルでの公演も決定しており、6月下旬から7月にかけて日本を訪れる前後にも、ウクライナやポーランド、ベルギーなどで行われるフェスへの出演予定がビッシリと詰まっています。衝撃的なデビューから20年以上の時を経た現在も、これほどの人気と多忙さを保ち続けていることに成功しているジプシー系の楽団は、彼らだけだと断言してもいいでしょう。ルーマニアの地図にも記載されていなかった小村から飛び出し、ワールドワイドな評価と名声を不動のものとしてきた彼らのステージを、ぜひ今回の来日を機会に体感してみてください。

吉本秀純

関連企画

ファンファーレ・チオカリーア出演ドキュメント映画

『炎のジプシー・ブラス〜地図にない村から』上映会

5月17日[金]19:00

チケットをお持ちの方:無料

チケットをお持ちでない方:

500円(当日払い)

会場:PLATアートスペース
事前予約不要

ファンファーレ・チオカリーア

現在のジプシー音楽を代表し、絶大な人気を誇る、世界最速最強のジプシー・ブラス・バンド。1998年デビュー以来、いまだにファンを増やし続ける。一年のほとんどをツアーに費やし、ヨーロッパを中心に世界中を回っている。伝統音楽からポピュラー音楽まで、彼らがラジオで聴き好きになった音楽を、何でも自分たちのスタイルで演奏してしまう。一度聴いたら忘れられない強烈な個性〜疾走感・壮快感に満ちている彼らの音楽は、行く先々で熱狂的に歓迎されている。その様子は、彼らのドキュメンタリー映画『炎のジプシー・ブラス〜地図にない村から』(2004)や、5つのジプシー・バンドによる全米ツアー「ジプシー・キャラバン」(2008)でも紹介されている。2000年の初来日から5回来日2014年には「Fuji Rock」にも出演した。2016年にヒップホップにも挑戦した新作アルバム『火星へGo!』を発表した。



吉本秀純[よしもと・ひですみ] 1972年生まれ、大阪市在住の音楽ライター。大学卒業後に京阪神エルマガジン社で月刊情報誌の編集に携わった後、2002年からフリーランスに。ワールド・ミュージックを中心にしながら東西の様々な媒体で執筆し、CDのライナーノーツなども多数。編著書に『GLOCAL BEATS』(2011年、音楽出版社)、『アフロ・ポップ・ディスク・ガイド』(2014年、シンコーミュージック)がある。



7月7日[日]17:00開演

出演=ファンファーレ・チオカリーア

会場=PLAT主ホール

世界最速ジプシー・ブラス

「ファンファーレ・チオカリーア」

とよはしアートフェスティバル2019 大道芸inとよはし



世界最速ジブシー・プラス「ファンファーレ・チオカリーア」



野村万作・野村萬斎 狂言公演2019



チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]
- オンライン <http://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内

- 料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売日から窓口にて取扱い。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

「松竹大歌舞伎」
松本幸四郎改め二代目松本白 鬚名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎鬚名披露



KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」



中村蒼ダンスワークショップ&ミニ劇場ツアー



4/20 [土] 17:00開演・21 [日] 13:00開演 **好評発売中**

「母と惑星について、および自転する女たちの記録」

第20回鶴屋南北戯曲賞受賞作品! 蓬萊竜太の戯曲と栗山民也の演出により立ち上がる、女性4人をめぐる“命”の物語、待望の再演。●作=蓬萊竜太●演出=栗山民也●出演=芳根京子、鈴木杏、田畑智子・キムラ緑子●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般7,500円ほか

4/30 [火・休] 14:00開演

プラット2019年度プログラム説明会

2019年度、PLATがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介します。後半は、ミニコンサート&ダンスパフォーマンス、をしてプレゼント抽選会も行います。●ゲスト出演=新津くらら(ヴァイオリン)、鈴木恵深(ピアノ)、中村蒼(ダンス)●会場=PLATアートスペース●料金=無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)※整理券はプラットチケットセンターにて配布中

5/4 [土・祝] 11:00~19:00・5 [日・祝] 11:00~17:30

とよはしアートフェスティバル2019 大道芸inとよはし

●会場=PLAT、豊橋駅南口駅前広場、広小路通り、こども未来館ここにて、豊橋公園●料金=無料

5/9 [木] 18:30開演

「かもめ」 **好評発売中**

●作=アントン・チェホフ●翻訳=小川絵梨子●演出=鈴木裕美●出演=朝海ひかる、岡本あずさ、須賀貴匡、渡邊りょうほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか

5/24 [金] 19:00開演

ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト 2019 豊橋公演 **好評発売中**

浮ヶ谷孝夫指揮、東三河出身の辻田薫りをソリストに迎えるドイツ・ブランデンブルグ拠点の国立管弦楽団によるコンサート。●指揮=浮ヶ谷孝夫●ヴァイオリン=辻田薫り●管弦楽=ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト●曲目=ベートーヴェン「交響曲第3番英雄」、チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」ニ長調ほか●会場=ライブポートとよはしコンサートホール●料金=[全席指定]S席一般5,000円、A席一般3,000円ほか

6/1 [土]・2 [日] 13:00開演

「CITY」

●作・演出=藤田貴大●出演=柳楽優弥、井之脇海、宮沢水魚、青柳いづみ ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席5,500円、A席3,000円ほか●6月1日のみ

6/22 [土] 13:30開演

「春風亭小朝 独演会」

ドラマ出演や音楽界とのコラボ、プロデュースなど幅広い分野でその才気を発揮している小朝師匠が今年もプラットに登場! ●出演=春風亭小朝●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般3,500円、ユース(24歳以下)2,500円

7/7 [日] 17:00開演

世界最速ジブシー・プラス

「ファンファーレ・チオカリーア」

●会員先行=4月6日(土)●一般発売=4月20日(土)●出演=ファンファーレ・チオカリーア●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般4,000円、ユース(24歳以下)2,000円ほか

7/18 [木] 14:00開演/18:30開演

野村万作・野村萬斎 狂言公演2019

人間国宝・野村万作と現代劇や映画など幅広く活躍する野村萬斎が率いる「万作の会」による狂言公演。新作狂言「鮎」ほかを上演いたします。●会員先行=4月13日(土)●一般発売=4月20日(土)●出演=野村万作、野村萬斎、石田幸雄、深田博治、高野和憲ほか●上演目録=新作狂言「鮎」、狂言「鐘の音」ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席7,000円、A席6,000円、B席4,000円ほか●※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。[特別協賛:サーラグループ]

7/27 [土] 12:30開演/17:00開演

2019年度(公社)全国公立文化施設協会 主催 東コース

「松竹大歌舞伎」

松本幸四郎改め二代目松本白 鬚名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎鬚名披露
豪華俳優陣による鬚名披露公演。当日はプラット茶屋の開店や特製弁当の販売など、劇場が丸一日歌舞伎小屋に変身! ●会員先行=4月27日(土)●一般発売=5月11日(土)●出演=松本白鬚、松本幸四郎、市川猿之助ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席10,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか●※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。



2019マイセレクト4 (A席)



2019マイセレクト4 (A席)



2019マイセレクト4 (A席)



14:00のみ



12:30のみ



「かもめ」

8/5 [月] 18:30開演

立川志の輔独演会

古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。●会員先行=5月25日(土)●一般発売=6月9日(日)●出演=立川志の輔●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般4,000円ほか●※発売日初日は、お一人様2枚までの枚数制限有り。

8/8 [木] 15:00開演・9 [金] 12:00開演/16:00開演

プラット親子わくわくプログラム2019

KAKUTAのとびだす童話

「ねこはしる」

8月9日12:00のみ
2019マイセレクト4 (A席)
のろまでドジな子猫とひとりぼっちの魚の成長の物語。いのちまたたく感動の物語を、ことばのせ、美しい音楽にのせ、演劇のあをびてころいっばいでお届けします。●会員先行=5月11日(土)●一般発売=6月1日(土)●作=工藤直子●構成・脚色・演出=桑原裕子●音楽=扇谷研人●出演=成清正紀、添野豪ほか●うた=花れん●会場=PLATアートスペース●料金=[全席指定・日時指定・整理番号付]大人3,000円、ユース(24歳以下)1,500円、こども(高校生以下)500円
[特別協賛:サーラグループ]

8/22 [木] 18:30開演・23 [金] 13:00開演

8/24 [土] 13:00開演・25 [日] 13:00開演

「お気に召すまま」

8月24日のみ
シェイクスピア中期を代表する喜劇として、世界各国で愛される名作を、熊林弘高の演出、満島ひかり、坂口健太郎らの出演で上演します。●会員先行=5月18日(土)●一般発売=6月1日(土)●作=W.シェイクスピア●演出=熊林弘高●出演=満島ひかり、坂口健太郎、満島真之介、中村蒼、中嶋朋子ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席9,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか●※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。

9/6 [金] 18:30開演

9/7 [土]・8 [日] 13:00開演

「最貧前線」

9月7日のみ
宮崎駿オリジナル作品の国内初の舞台化。小さな漁船に乗り込んだ男たちによる太平洋戦争の歴史秘話を、次の世代に語り継ぐべき物語として描きます。●会員先行=6月8日(土)●一般発売=6月22日(土)●原作=宮崎駿「宮崎駿の雑想ノート」より●脚本=井上桂●演出=一色隆司●出演=内野聖陽、風間俊介、溝端淳平、ベンガル ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席9,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか●※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。
[特別協賛:サーラグループ][共同主催:メ〜テレ・メ〜テレ事業]

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

好評発売中

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・整理番号付]500円
5/16 [木] 19:00開演

『クラリネットトリオの夜〜隠れた名曲に乗せて〜』

Trio Glanz[トリオ・グランツ]野本淳之亮(クラリネット)、黒川真洋(チェロ)、山下響(ピアノ)

6/12 [水] 14:00開演

『フルートで奏でる近現代の世界』

河合雪子(フルート)

7/3 [水] 11:30開演

『サクソフォんで紡ぐ世界旅行』

鈴木研吾(サクソフォン)、板垣千香子(ピアノ)

8/12 [月・休] 11:30開演

『オーボエの魅力と可能性』

松本純奈(オーボエ)

ワークショップ・レクチャー

4/29 [月・祝] 14:00-16:00

中村蒼ダンスワークショップ&ミニ劇場ツアー

『歌謡曲スイッチ! PLAT開館記念スペシャル!』
~主ホールの裏側エリアの見学と舞台上でワークショップを行います。広々とした舞台の上で、踊ってみませんか?ダンス経験は問いません。小学生からシニアまでご参加いただけます。●講師=中村蒼●会場=PLAT主ホール●参加費=中学生以上500円、小学生以下無料●対象=小学生以上などなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)●募集人数=30名(先着順)●申込方法=①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより

5/18 [土] 13:00-17:00

哲学対話ワークショップ『問う・考える・語る・聞くを知る』

グループで一緒に話すことを通じて共同で思考を広げ、深めていく「哲学対話」に触れるワークショップです。●講師=梶谷真司(東京大学大学院総合文化研究科教授)●会場=PLAT創造活動室B●参加費=1,000円●対象=高校生以上●募集人数=20名程度(先着順)●申込方法=①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより



撮影:伊藤華織

「みなさん、ありがとう」

PLATの芸術文化アドバイザーになってから一年が経とうとしています。あまりにアツという間で、アドバイザーらしいことをまだ何もしていない!と思うのですが、初めて豊橋を訪れた人に美味しいお店を何軒かは言えるようになったし(方向音痴でまだ迷いますけど)、ワークショップや公演を通じて劇場へ足を運んでくれる方々の顔も覚えてきたし、劇場職員や市の職員の方々との冗談を言い合ったり、そんなことが少しずつできるようになってきた、かも…つまらないこと言っただけで引かせていたらごめんさい。

でも私の方では勝手に、豊橋への親しみというものがゆっくりと、塩パンからしみ出るバターのように、じゅじゅと溢れてきています。なぜ塩パンかという、先ほどまで食べていたんです。宮崎県立芸術劇場から歩いてほど近い場所にあるパン屋さんの名物・塩フランスパン。カリカリもちっとして、バターたっぷりて本当に美味しいので、今朝は開店時間を待って、ふたつ買って食べました。

そう、私は今、宮崎県にいます。宮崎県立芸術劇場主催の舞台に出演するため、1ヶ月間滞在しているのです。今回は俳優として。ぴったりしたタイトスカートを舞台上で履きなせねばならないのに、チキン南蛮にうどんに地鶏、美味しい物が多くて困ります。

地方での滞在製作の楽しみに食はやはり欠かせません。北九州ならごまサバ、焼きカレー。先日、北海道戯曲賞の審査員をするため訪れた札幌では、やはり海鮮、ジンギスカン。豊橋ならばカレーうどんやあんまき、

としてちくわを勧めますが、もっとあれもこれも、こんなもある!と皆さんは思われるでしょうね。是非、教えてください。

札幌へは宮崎滞在中に行ったのですが、羽田を経由して行ったり来たりしたので、何度か東京に帰ることが出来ました。でも、それ以外にもうひとつとても嬉しい出来事があり、東京に戻ることにしたのです。

一昨年の冬PLATの主催で上演し、私が脚本・演出を手がけた舞台『荒れ野』が、第70回読売文学賞の戯曲・シナリオ部門に選出され、その贈賞式へ行ったのです。

実は私、読売演劇賞はよく知っていても、読売文学賞に戯曲・シナリオ部門というものがあると知りませんでした。文学賞なんて無縁の場所だと思っていたのです。ところが調べてみると、歴代の受賞者は三好十郎や安部公房、三島由紀夫…!とんでもない文豪たちが連綿と名を連ねていました。あまりに想定外の出来事で、報せを受けたときも、贈賞式の壇上で他の受賞者の方々と肩を並べている間もずっと、場違いなところへ来てしまったような気分でワフワフとしていました。

だって豊橋の方々でご覧になった方もいることでしょう、『荒れ野』という作品は、二時間にも満たない作品なのに、キャストはたったの6人、団地の小さな一室で鍋をついたり布団の上で喋ったりする、言ってしまうとそれだけの話です。同文学賞の研究・翻訳部門で受賞された古井戸秀夫氏の『評伝 鶴屋南北』は、執筆から出版までに十年、原稿用紙四千枚の超大作。私の戯曲の何

芸術文化アドバイザー 桑原裕子

本分でしょうか。とりや私だって死ぬ気で描きましたが…!

『荒れ野』が賞をいただくのは昨年の第5回ハヤカワ『悲劇喜劇』賞に次いで二つ目。『悲劇喜劇』が受賞作として戯曲を掲載してくださいのおかげで、読売文学賞の候補に挙がりました。

「なんとコスパのいい舞台だ!」贈賞式の打ち上げで久々に公演キャストとスタッフが一堂に会したとき、誰かが冗談で言いました。まったく恐れ多いジョークですが、そんな風に言わないと信じられぬくらい、このさきやかな一夜を描いた物語が受けた栄誉は大変な幸運でした。

『荒れ野』は豊橋に滞在して初めて製作した作品。今作の思い出は豊橋と共にあります。アドバイザーとして迎えていただき、前アドバイザーの平田満さんやプロデューサーの矢作勝義さんをはじめ、PLATに関わる多くの方に支えていただいたからこそ、創りあげることができた作品です。

私は豊橋からすごい宝物をもらってばかり。ちくわも、あんまきも、たくさんいただきましたが、何より素晴らしい出逢いをいただいています。

あらためて豊橋の皆さん、本当にありがとう。どうしたら皆さんに恩返しできるのか、真剣に考える日々です。札幌のジンギスカンくらい、早朝の開店時間に向かい向いてしまう宮崎市の塩パンくらい、日本中へ、豊橋の、PLATの美味しさを知っていただくには…!

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES
architect engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp



有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 053-52-5256

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市花中町 160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話 52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場
パ-ク500
ソウの親子の看板が自印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 命ちくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町中畑13-1 マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市兵衛町四拾四番地 電話52-5514

本 豊川堂
本店・カルミア店・アピタ向山店・プリオ豊川店
セントアール田原店・ささしまグループゲート店

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にファインクオリティ

sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00~19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

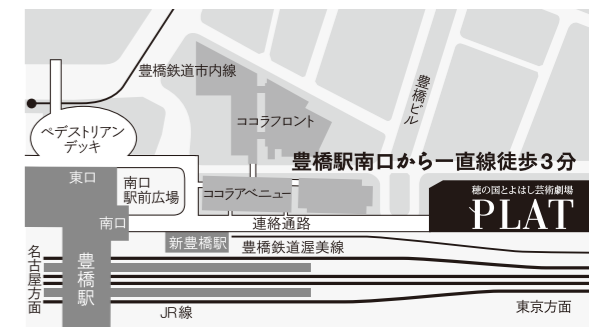


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT